



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 6 月 23 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

紫陽花



お好きな色に染めてください・・・

紫陽花が見頃をむかえる季節となりました。山形市内ですと、山形市村木沢地区にある「出塩文殊堂」は紫陽花寺とも呼ばれ、約 1200 年前に弘法大師が開いたとされる古刹です。今のところまだ二部から四部咲きといったところでしょうか。「あじさい祭り」は 7/1(月)から 15(月)まで。ライトアップは 7/6(月)から 13(土)の予定だそうです。ずいぶん前になりますが、山形工業高校環境システム科の時代、学校で作ったバイオディーゼル燃料を自前のディーゼル発電機に入れて、ライトアップに協力させていただいた時期がありました。懐かしい思い出です。米沢市内ですと、米沢市笹野にある「笹野観音堂」が紫陽花寺とも呼ばれており、こちらも例年多くの方で賑わいます。笹野観音堂は 1,200 年以上の歴史を持つお寺で、大同元年(806 年)に弘法大師の高弟である徳一上人によって開基されました。本尊は千手千眼観世音菩薩で、置賜 33 観音 19 番礼所とされています。歴代の藩主たちも信仰しており、現在の堂宇は天保 14 年(1843 年)に再建されたものです。こちらも毎年 7 月中旬には「笹野観音初十七堂祭」が行われ、火渡りの神事や花市が開かれます。是非お出でになってみてはいかがでしょうか。

こうした地元の風景は、今頃になってようやく、その有難さが心に沁みるお年頃になりました。あまりに身近にあると、気が付かないものなのかもしれませんね。紫陽花といったら鎌倉の明月院や長谷寺をあげる方が多いと思いますが、山形の出塩文殊堂も米沢の笹野観音堂も、その規模や鮮やかさにおいて全く負けていません。ホント。JR の観光キャンペーンあたりでもっと宣伝してくれればいいのにな～。おそらくですが、観光客はそれだけを目当てに来る

という人はそんなにいなくて、食べ物やその他お得感のある体験や風景、有名な逸話や歴史観などもセットで求めているのでしょうか。

さて、いよいよ本題に入るわけですが、今回は紫陽花の色にまつわる話です。

紫色やピンク色といったさまざまな色調を見せる紫陽花ですが、一度咲き始めてからも色が変わる、昨年と今年は色が違う、などという特性を持っているのです。そのため、「七変化」や「移り気」などという花言葉を持つようになりました。紫陽花の色の微妙な変化、それは土壤の pH バランスが影響しており、気まぐれな行動ではなく、しっかりとした根拠が存在します。その色変化の背後にある要素は、紫陽花が育つ土壤の pH 値です。青く咲く理由は、日本の土壤の酸性化にあります。反対にアルカリ性の土壤ではピンク色になる特性を持っています。これは紫陽花の色素であるアントシアニンが、土壤中のアルミニウム含有量に反応するためだそうです。

酸性の土壤ではアルミニウムが多く、アルカリ性の土壤ではその量が少なくなるのだそうです。したがって、「今年の紫陽花は特定の色にしたい!」と望むなら、肥料を適用し土壤の酸度を調整することで、それが可能ということになります。単純にアントシアニンの構造変化だけで判断しないでね。花の色は逆だから。驚くべきことに、「青い紫陽花用の土」や「ピンクの紫陽花用の土」のような、すでに酸度が適切に調整された便利な土壤製品がすでに販売されているのだそうです。

更に紫陽花は、その色合いによって、意味合いが異なります(花言葉)。ピンク色は「エネルギー的な女性」を表現し、白色は「大きな寛大さ」を青色は「忍耐力を持った愛」を象徴するのだそうです。しかし、花の色によっては逆の意味を持つこともあります。

例えば、「不貞」や「移り気」を象徴することもあるので、ご注意ください。

